

日銀旭川事務所長のみた
旭川シーン
SCENE 19

所得分配の
公平性について

市に劣るのは仕方ないと
して、道内の構成比以下
となったのは残念なこと
です。

ここで、中・高所得層
の構成比が相対的に伸び
悩んだ旭川市では、所得
格差が緩和されたのかと
言うところ、そうでもないよ
うです。格差を測る一つ
の道具として、ローレン
ツ曲線という概念があり
ます。横軸に人員数構成
比の累積値、縦軸に総所
得構成比の累積値をとっ
てプロットすると、全員
が同じ所得の社会では右
上りの四十五度線に沿
った点がプロットされま
すが、格差が広がるほど、
曲線は四十五度線から下
向きに膨らみます。

札幌国税局が公表して
いる税務署ごとの、申告
所得税の所得階層別人員
数につき、階層ごとに構
成比を算出し、札幌市、
旭川市、両市を除く道内
(以下、「道内」)で
比較しました。

二〇一七年度における
旭川市の特徴は、まず、
七十万円以下の比率が札
幌市や道内よりも多く、
〇八年度からの増加率も
多いことです。その一方、
一千万円以下から五千万
円以下までの旭川市の
中・高所得区分が、札幌

市に劣るのは仕方ないと
して、道内の構成比以下
となったのは残念なこと
です。

例えば、九十九人は殆
ど所得がなく、最後の一
人が一億円を稼ぐ社会で
は、線は横軸にほぼ沿っ
て進み、一〇〇%のここ
ろでほぼ垂直に直立しま
す。これを試算すると、
旭川市は〇八年度から一
七年度にかけて、曲線が
下向きに膨らんできてい
ます。膨らみ方の程度を
示すジニ係数(数字が大
きいほど格差が拡大)を
試算すると、〇・五四六
から〇・五九四へ上昇し
ています。また、旭川市
の一七年度は、本試算で
は、札幌市(ジニ係数〇・
六一〇)ほど膨らんでい
ませんが、道内(同〇・
五七六)よりも膨らんで
います。所得の総額の増

加も大事な課題ですが、
その恩恵が経済の土台と
なる大勢の人々にも行き

渡るような発展を期待し
たいところです。

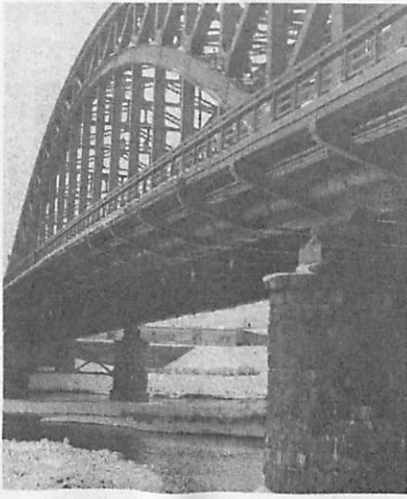
Planet of the apes

(邦題『猿の惑星』一九
六八年映画化)は、猿に
支配された惑星に不時着



資料出所:札幌国税局「税務署別課税状況」

した宇宙飛行士の話です。その惑星は実は地球であって、人間が衰え、猿が栄えた未来社会に宇
宙飛行士はタイムスリップして
いたのです。猿が日本人、人間が欧米人
を暗喩しているとの解釈もあり、宇
宙飛行士が廃墟となった自由の女神像を見つ
け、その惑星が猿に支配



旭橋は、その威容を支える橋脚も頑健。旭川経済も土台が大事

された地球であることを
悟るラストシーンは、日
本が欧米に取って代わる
暗喩だということです。実
際の作者の意図は分かり
ませんが、古今東西、奢
る平家は久しからず。旭
川に暮らす私たちも、北
海道第二の都市という立
場に安住せず、まずは脚
うごかしました。

転勤のため、私のコラ
ムは今回で最後です。お
付き合い頂き、ありがとう



【中本浩信(なかもとひろのぶ) 一九六三年東
京生まれ。東京大学法学部卒。支
店は鹿児島、神戸に勤務。二〇一八
年八月から旭川事務所長。趣味は絵
画鑑賞。】